

A 類 国際教育選修 3 年生

これまで外国を訪れたことはあったが、その国の歴史やその国と日本との関係について勉強することはなかった。今回のプログラムでは、普通の旅行ではできないような体験をし、多くのことを考えた。英語について、ハワイの歴史や日本との関係について、宗教についてなど、外国の地ハワイに行ったからこそ経験し、さまざまに考えることができたものがあった。一方で、学年や専攻の違う全く知らなかった同じ大学の学生と、外国で行動を共にし、コミュニケーションをとり、考えたことを話し合えるまでの関係を作ることができたこともまた、今回のプログラムでの成果であったと感じている。

今回のプログラムでは、3つの教育機関で、そこで働く人や学ぶ人と交流する機会があった。「外国人は日本人とちがってフレンドリー」と言われることがあるが、ハワイの人がみなフレンドリーで積極的なわけではなかった。積極的に話しかけてきてくれる人もいれば、シャイな人もいた。「日本人」「外国人」と区別して、それらをそれぞれひとくくりに特徴づけるべきでないということを身をもって実感した。

また、ハワイに滞在し、あらゆる場面で英語力の必要性を感じた。自分の英語力不足のために相手とうまく意思疎通することができなかつたり、聞きたいことをセーブしたりしてしまう場面が多かった。人とコミュニケーションをとる際、言語が重要な役割を果たすことを実感し、もっとさまざまなことを知っていくためにはもっと英語を勉強するべきだと思った。

今回のプログラムでは、ヒロとホノルルの両方に行くことができたため、ハワイについての見方が広がった。ヒロでは現地の教育機関を訪れたり、日系移民の方と交流したりし、ハワイの教育や日系移民について知ることができた。ホノルルでは、ヒロと違って日系移民ではなく、日本人観光客や日本人の移住民が多いことを実感した。自由行動の時間に学生だけ、もしくは自分1人で行動したことは、自信にもなった。その他、教会や博物館など多くの場所に行き、さまざまな経験をすることができ、今後、よりハワイについて勉強したいという意欲をもった。

今回のプログラムを通し、自分に英語力がないことを改めて実感した。現地で日本からの留学生にも会い、留学をととても魅力的に感じた。一方で、留学とはどういうものかを知ることができ、残りの大学生活で自分が今一番やるべきこと、やりたいことを明確化しなければならないと考えることができた。今後、私は地元の小学校の教員になりたいと思っている。今回のプログラムで経験したことは、広い視野を持つ子どもを育てるために役立つと思う。これからも国内外でさまざまな経験をして、子どもの可能性を広げられる教師になりたいとより一層感じた。(一部省略)